

1 文章の組み立てをくふうし、中心のはっきりした文章を書きましょう。  
2 段落の初めは、必ず一字下げて書き始め、段落ごとに行を変えましょう。

( ) 月 日 曜日

大川の滝の不思議な力

神山小 六年 宮司 愛菜

七月二日 私たち六年は、島回りで大川の滝

まで行くことになった。

「がんばろうね。」

などの声が辺りからたくさん聞こえてくる。

出発進行みんななで歩き出す。猛暑の中歩いて

いくと、汗が滝のように流れていく。少しし

か歩いていないのにもう足が重くなっている。

一っ目の休けい場所についた。水分をとって

休けいする。五分ぐらいしてまた歩き出す。

「つかれた。」

みんな口々に言った。私も本当はつかれたと

さけびたいくらいだった。たんだん歩くのが

おそくなってきた。早く歩きたいのに、体が

動いてくれない。それでも少しずつ

でも歩いてく。だってゴールが大川の滝だから

ら。幼児のとき少し行っただけがあるだけ。

久しぶりに大川の滝に会えるからだ。だから

足を止めない。途中でスイカやアメおともら

No.

3 詩はどの行も三ばんめのマスから書き頭をそろえましょう。  
4 書き終ったら、何回も読み直して、まちがいを直したり、書き足りないところを書き足し、むだなところはけずりましょう。

(不許複製)



1 文章の組み立てをくふうし、中心のはっきりした文章を書きましょう。  
2 段落の初めは、必ず一字下げて書き始め、段落ごとに行を変えましょう。

( ) 月 日 曜日

った。私は人のやさしさを感じているとその  
 時実かんじた。  
 「がんばれ。あと少し。」  
 と声をかけてくれる。あと少しあと少しそう  
 思いながら歩いていった。そこからあまり時間  
 がたたないうちに、かすかにサ、サ、と音が  
 してきた。もっと近づいていくとザ、と音が  
 大きくなってきた。  
 「滝だ。」  
 私は思わず走っていた。なぜ走っているのか  
 それは、もう一つしかない。幼児のときにあ  
 びたマイナスイオンをもう一度あびたい。そ  
 う思ういつしんだった。大川の滝につく。  
 「やった。っいた。」  
 大きな声でさけんでしまった。高い岩に登る  
 とマイナスイオンが体にあたってきた。やっ  
 ぱり小さいころと変わらざるごとく気持ちいい。  
 島回りのっかれもマイナスイオンで流された。  
 大川の滝のマイナスイオンはやっぱりすごい。  
 私は、そう改めて思った。小さいころは、何

No.

3 詩はどの行も三ばんめのマスから書き頭をそろえましょう。  
4 書き終ったら、何回も読み直して、まちがいを直したり、書き足りないところを書き足し、むだなところはけずりましょう。

(不許複製)



1 文章の組み立てをくふうし、中心のはっきりした文章を書きましょう。  
2 段落の初めは、必ず一字下げて書き始め、段落ごとに行を変えましょう。

（ ）月 日 曜日

を思いながらマイナスイオンをあびていたの  
だらう今の私は、そんなことを思いながらあ  
びていた。  
「あ、ち行ってみよう。マイナスイオンがめ  
っちゃかかっている場所あるよ。」  
と友達が言った。その友達二人と私の三人で  
たくさんのマイナスイオンをあびられる場所  
に行った。そこは、小雨ほどに多くふって  
た。じっとしていると、ビシヤビシヤになる  
ほどだった。そして滝は、見れば見るほど迫  
力が増しているようだった。すると、親がみ  
んなを集めて、昼ご飯のそうめんを食べた。  
そのそうめんは、みんなで食べるとやっぱり  
格別においしかった。  
島回りは、たしかにもう歩けないほど足が  
いたかった。でも、大川の滝のマイナスイオ  
ンのおかげで、すごく元気になれた。大川の  
滝は不思議な力があるのかも。これからも、  
この滝は、みんなをいやしてくれらるだらう。  
その不思議な力で。

(不許複製)

3 詩はどの行も三ばんめのマスから書き頭をそろえましょう。  
4 書き終ったら、何回も読み直して、まちがいを直したり、書き足りないところを書き足し、むだなところはけずりましょう。

